

平成29年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 堀川 徹二
	団体所在地 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの 実施方針・方法 等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 0 8 3 - 2 3 1 - 1 1 6 8
	E - m a i l : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：地域交流事業参加人数 (単位：人)

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合計
目標値	350	300	-	-	-	-
実績値	314	-	-	-	-	-
差	36	-	-	-	-	-

平成29年度においては、各種慰問の受入れを積極的に行い、外部交流との機会の増加に努めていましたが、実績値が目標値に達しませんでした。平成30年度以降は、外部交流との機会の増加による地域交流事業をさらに推進し、参加人数の増加に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑の施設設置目的は、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な高齢者に対し、健康で生きがいある生活を送るためのサービスを提供することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

見学者や面接者に対する丁寧な対応や本市との連携を心がけ、入所者数については平均で定員の概ね 85%となっています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

平成30年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、安心して入所者が施設で生活できるよう管理運営に努めるよう求めます。また、関係機関と連携を密にし、施設入所希望者の情報把握に心掛けるよう求めます。

ソフト面では、施設内外の行事やクラブ活動等のレクリエーションを実施し、入所者の施設生活の充実に努めていきました。今後も心身共にリフレッシュできるレクリエーション等を充実させ、入所者の心と身体の健康に配慮した取り組みを続けていくことを求めます。

ハード面では、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

入所者の心身の健康の増進を図り、地域社会との交流を積極的に行う等、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や入所者への対応については、公平・平等な施設生活が確保されるよう努力していました。施設の効用については、入所者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

入所者アンケートを参考にした食事の提供等、入所者サービスの向上に努めていました。入所者を施設内に孤立させず、地域社会との関わりを促進するため、地域の祭り等への参加や、他施設及び他団体との交流会を積極的に実施していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、入所者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

指定管理料等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、防災訓練も実施していました。施設賠償責任保険の加入もしていました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等の徹底について実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境への配慮の取組みを行っていました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

平成30年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑
所在地	下関市大字永田郷字寺門158番地1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 山田 恭之
	団体所在地 下関市唐戸町4番1号カラトピア5F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：地域交流事業参加人数 (単位：人)

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	合計
目標値	350	300	300	-	-	-
実績値	314	195	-	-	-	-
差	36	105	-	-	-	-

平成30年度においては、地域貢献活動や各種慰問の受入れを積極的に行い、外部との交流の機会増加に努めていましたが、感冒・インフルエンザの流行が見られたため、一部イベントへの参加を中止せざるを得ず、実績値が目標値に達しませんでした。令和元年度以降は、外部交流等の機会の増加による地域交流事業をさらに推進し、参加人数の増加に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑の施設設置目的は、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な高齢者に対し、健康で生きがいある生活を送るためのサービスを提供することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

見学者や面接者に対する丁寧な対応や本市との連携を心がけ、入所者数については平均で定員の概ね80%となっています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

令和元年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、安心して入所者が施設で生活できるよう管理運営に努めるよう求めます。また、関係機関と連携を密にし、施設入所希望者の情報把握に心掛けるよう求めます。

ソフト面では、施設内外の行事やクラブ活動等のレクリエーションを実施し、入所者の施設生活の充実に努めていました。今後も心身共にリフレッシュできるレクリエーション等を充実させ、入所者の心と身体の健康に配慮した取り組みを続けていくことを求めます。

ハード面では、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

入所者の心身の健康の増進を図り、地域社会との交流を積極的に行う等、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や入所者への対応については、公平・平等な施設生活が確保されるよう努力していました。施設の効用については、入所者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)

入所者アンケートを参考にした食事の提供等、入所者サービスの向上に努めていました。入所者を施設内に孤立させず、地域社会との関わりを促進するため、地域の祭り等への参加や、他施設及び他団体との交流会を積極的に実施していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、入所者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

指定管理料等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、防災訓練も実施していました。また、平成30年度は防災危機管理課から講師派遣を受けて防災研修を実施することで入所者・職員ともに防災意識の啓発に取り組んでいました。施設賠償責任保険の加入も行っていました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等の徹底について実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境への配慮の取り組みを行っていました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和元年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	団体名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 山田 恭之
	団体所在地 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	T E L : 0 8 3 - 2 3 1 - 1 1 6 8
	E - m a i l : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

目標値の達成度

指標：地域交流事業参加人数

(単位：人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	350	300	300	300	-	-
実績値	314	195	358	-	-	-
差	36	105	58	-	-	-

令和元年度においては、国内で新型コロナウイルスの感染が拡大した 2 月以降には、地域貢献活動や各種慰問の受け入れといった外部との交流を中止せざるを得ない状況となりました。

しかしながら、そのような中でも目標値を達成しており、令和 2 年度以降も引き続き地域交流事業の推進に努めることを求めます。

モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑の設置目的は、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な高齢者に対し、健康で生きがいある生活を送るためのサービスを提供することです。その管理運営実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施についても適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

業務内容についても、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

見学者や面接者に対する丁寧な対応や本市との連携を心がけ、入所者数については平均で定員の概ね 8 4 % となっています。

収支結果は、指定管理者において様々な経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

今後の業務改善に向けた考え方

令和 2 年度以降も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、入所者が施設で安心して生活できるよう管理運営に努めるよう求めます。また、関係機関と連携を密にし、施設入所希望者の情報把握に心掛けるよう求めます。

ソフト面では、施設内外の行事やクラブ活動等のレクリエーションを実施し、入所者の施設生活の充実に努めていました。今後も心身共にリフレッシュできるレクリエーション等を充実させ、入所者の心と身体の健康に配慮した取り組みを続けていくことを求めます。

ハード面では、集会所のフローリング化により利便性が向上しました。また、利用者から大きなクレームも無いことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

入所者の心身の健康の増進を図り、地域社会との交流を積極的に行う等、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設運営や入所者への対応については、公平・平等な施設生活が確保されるよう努力していました。施設の効用については、入所者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

入所者アンケートを参考にした食事の提供等、入所者サービスの向上に努めていました。入所者を施設内に孤立させず、地域社会との関わりを促進するため、地域の祭り等への参加や、他施設及び他団体との交流会を積極的に実施していました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、入所者から出た意見・要望等についても、職員で情報を共有し、今後の改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

指定管理料等の収入、施設管理費等の支出については、適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、地震・土砂災害・火災想定防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。
さらに、感染症対策については、年間を通して感染症研修、予防対策を実施していました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等を実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和2年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑
所在地	下関市大字永田郷字寺門158番地1
指定管理者	名 称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 後藤 吉秀
	住 所 下関市唐戸町4番1号カラトピア5F
モニタリングの 実施方針・方法 等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次業の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標: 地域交流事業参加人数(単位: 人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	350	300	300	300	300	1,550
実績値	314	195	358	0	-	-
差	△ 36	△ 105	58	△ 300	-	

令和2年度においても、令和元年度第四四半期同様、新型コロナウイルス感染症の影響により地域交流事業を中止せざるを得ない状況となり、目標値を達成することはできませんでした。令和3年度は、参加者の安全確保を最優先しつつ、地域の感染状況を見ながら、目標値の達成に努めることを求めます。

■ モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑の設置目的は、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な高齢者を受け入れ、健康で生きがいのある生活を送るためのサービスを提供することです。令和2年度の管理運営業務については、施設の設置目的を達成するために、施設の維持管理及び業務が適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。

また、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

入所希望者に対する丁寧な対応や本市との連携を心がけ、入所者数については平均で定員の概ね86%となっています。

収支結果は、指定管理者において経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和3年度も、本施設の設置目的を推進するため、業務のさらなる向上・充実を図り、入所者が施設で安心して生活できるよう管理運営に努めるよう求めます。また、関係機関と連携を密にし、入所希望者の情報把握を心がけるよう求めます。

ソフト面では、コロナ禍で行事・外出の中止を余儀なくされる中でも、入所者の安全確保に配慮しつつ単調な生活とまらないよう季節行事や代替行事を実施し、サービスの質の向上に努めていました。今後も入所者の健康保持に努め、また利用者の要望にできる限り応えるよう柔軟な対応を求めます。

ハード面では利用者からクレームも無く、設備の更新も適時実施されていることから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努めることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

入所者の心身の健康の増進を図り、コロナ禍においても単調な生活とならないよう工夫するなど、施設の設定目的に沿って適切に運営していました。また、施設運営や入所者への対応については、公平・平等な施設生活が確保されるよう努めていました。施設の効用については、入所者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

嗜好調査や給食会議等での意見を献立に柔軟に反映させるなど、入所者サービスの向上に努めていました。コロナ禍で行事・外出が制限されるなかであっても、苑内でのレクリエーションに機能訓練の要素を取り入れるなどして、入所者のストレスや不満の緩和を図っていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても、異常が認められた場合には速やかに対応していました。また、入所者アンケートで把握した要望に対しても、職員で情報を共有し改善を図っていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

指定管理料等の収入、施設管理費等の支出については適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、地震・土砂災害・火災想定防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。さらに、年間を通して検温、マスクの着用、消毒といった新型コロナウイルス感染症対策にも重点的に取り組んでいました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等を実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状況は健全と判断しました。

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市陽光苑
所在地	下関市大字永田郷字寺門 1 5 8 番地 1
指定管理者	名称 社会福祉法人下関市社会福祉事業団
	代表者 理事長 後藤 吉秀
	住所 下関市唐戸町 4 番 1 号カラトピア 5 F
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。</p>
担当部課 (問合せ先)	福祉部長寿支援課
	TEL : 083-231-1168
	E-mail : fkchojus@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：地域交流事業参加人数（単位：人）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	合計
目標値	350	300	300	300	300	1,550
実績値	314	195	358	0	20	887
差	△ 36	△ 105	58	△ 300	△ 280	△ 663

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により地域交流事業を開催することは困難であり、地域清掃を1度開催するのみに止まりました。指定管理期間全体での達成度は57%と、令和元年度終盤から継続するコロナ禍により目標を下回ることとなりました。

■ モニタリングの総合コメント

下関市陽光苑の設置目的は、環境上の理由及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な高齢者を受け入れ、健康で生きがいのある生活を送るためのサービスを提供することです。令和3年度の管理運営業務については、施設の設置目的を達成するために、施設の維持管理及び業務が適切に行われており、総合的に判断して良好と評価します。また、条例・規則を遵守し、仕様書等に定める業務を適正に実施しています。

コロナ禍にあっても可能な限り入所希望者のもとを訪問するなど丁寧な対応を心がけ、入所者数は平均で定員の概ね81%となっています。

収支結果は、指定管理者において経営努力が行われた結果、適正な範囲でした。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

下関市陽光苑の指定管理は令和3年度末日をもって終了しました。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

入所者の心身の健康の増進を図り、コロナ禍においても単調な生活とならないよう季節行事や代替行事を積極的に企画するなど、施設の設置目的に沿って適切に運営していました。また、施設運営や入所者への対応については、公平・平等な施設生活が確保されるよう努めていました。施設の効用については、入所者への必要な支援が確保され、設置目的は達成されていました。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

嗜好調査や給食会議等での意見を食形態や献立に柔軟に反映させ、入所者サービスの向上に努めていました。昨年度に続き、コロナ禍で行事・外出が制限されるなかであっても、入所者との対話を例年以上に重視し入所者のストレス緩和や精神面の安定を図っていました。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

運営については、職員配置基準を遵守し適切に行っていました。施設の維持管理についても、異常が認められた場合には速やかに対応していました。また、入所者アンケートで把握した要望に対しても、職員で情報を共有し改善を図っていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

指定管理料等の収入、施設管理費等の支出については適正に処理され、領収書や経理関係調書も整備保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

防災等の各種対応マニュアルを作成し、地震・土砂災害・火災想定防災訓練を実施していました。また、施設賠償責任保険にも加入していました。さらに、施設内にコロナ感染防止チームを設け新型コロナウイルス感染症対策にも重点的に取り組んでいました。

社会性(環境等への配慮)

不要箇所の照明の消灯や、冷暖房温度の省エネ設定等を実施していました。また、コピー用紙は再生紙を利用し環境へ配慮していました。

事業収支

経済性

事業収支については、指定管理者の努力により適正な範囲でした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、特に大きな課題や問題はないため、経営状況は健全と判断しました。